

1 中期学校経営方針

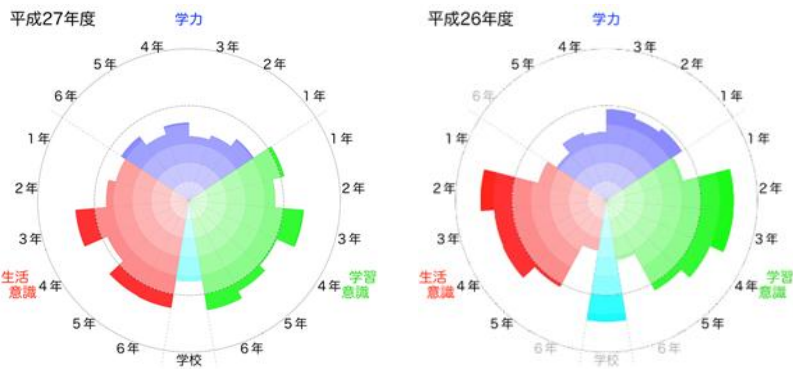
(1) 学校経営中期取組目標

| 学校経営中期取組目標 | |
|---|--|
| <p>○ 学校、家庭、地域がしっかりと手を結び、児童が安全、安心に過ごせる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習を通して、児童が学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、自己の思いを豊かに表現できる子を育てます。 ・道徳の学習や、伝統的行事に取り組み、豊かな心を育みます。 ・体育的行事に取り組みながら健康的な身体を作ります。 ・学校・家庭・地域との「つながり」を大切にして、地域の中に生きる心豊かな子を育てます。 | |

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|--------------------------------|--|---|
| <p>確かな学力 (学習指導)</p> | <p>どの子ども「わかる」喜びを実感できる授業を保障し、基礎・基本の定着を図るとともに、問題解決学習を通して表現力の育成を目指していく。</p> | <p>①スキルタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。 ②特別な教育支援が必要な子どもの在籍する学級においても安定した授業ができる指導技術を教師が身につけていく。 ③学年での教材研究や実践的な研修を組織的に行い、研究・研修を通して教師の授業力向上に努める。 ④児童の特性に応じ、個々に合った教育を展開する。</p> |
| <p>担当</p> | <p>重点研推進委員会</p> | |

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学習意識が高く、学習の大切さを子どもたちが意識していることがわかる。授業中の学習態度もよく、意欲的に学習に取り組んでいる様子が見られる。高学年の生活意識がたかいことがわかる。学力は、どの学年も市の平均よりも低くなっている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：すべての学年で言語についての知識・理解・技能、読む能力が市平均を下回っている。引き続き基礎・基本の定着を目指した取り組みが大切になる。
- 算数科：中学年以降は、数学的な考え方、知識・理解・技能のすべてにおいて市平均を下回っている。特に数学的な考え方は、全学年でしたまわり、市平均との差も大きい。
- 社会科：3～6年の全学年ですべての観点で市平均を下回っている。特に社会的な事象についての知識・理解が低くなっている。
- 理科：思考・表現は3～6年の全学年で市平均を下回っている。技能は、学年が上がるにつれ高くなっていき、6年生で市平均を上回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習意識は、高い状態が続いているが、学年別にみると4年（現5年）が3年生から4年生にかけて大きく下がっている。2年生（現3年生）は、1年生の時より、学力、学習意識とも市の平均を下回っている。引き続き、自己肯定感を高めていくことができるよう、細やかな指導をしていく必要がある。全学年とも学力が市平均を下回る状況が続いているので、基礎・基本の定着に引き続き力を入れていくことが大切であると考えます。

3 平成 28 年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 話す・聞く活動を多く取り入れ、話す・聞く力の基礎を培っていく。また、話を聞くときには、相手の目を見てしっかりと話を聞くなどの態度がしっかりと身につくように指導する。
- 基礎・基本を身につけるために、家庭学習やスキルタイムの時間を使い、繰り返し学習を多く取り入れる。また、音読指導にも力を入れる。

2 学年

- 一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を高めることで学習に前向きに取り組めるようにする。
- 学年合同の学習活動を多く取り入れる。
- 具体物を使ったり、活動を取り入れたりするなど、学習への意欲を引き出せるようにする。
- 発表の機会を多く設け、表現力を育てる。

3 学年

- めあて意識をもたせじゅぎょうを行う。
- 繰り返しの練習や毎時間の樹魚の理解度を確認するなどして基礎・基本の定着を図る。
- 具体物の利用や体験・活動を通して学習への意欲を引き出す。
- 地域の材を生かし、実感の伴う学習ができるようにする。
- 様々な学び方を体験して、思考力や表現力を育てる。

4 学年

- 「目標」→「行動」→「振り返り」のサイクルを児童が活動できるように計画を立てる。
- 児童の発表機会を増やし、言語活動の充実を図り、考えを深められるようにする。
- 算数少人数指導 (TT) による個に応じた指導・支援が確実にできるようにする。
- 児童に関わる教師間で、共通理解を図り、チームで指導していく。

5 学年

- 算数少人数指導 (TT) による個に応じた指導・支援が確実にできるようにする。
- 児童の発表機会を増やし、言語活動の充実を図ることで、考えを深められるようにする。
- 学習カードを活用し、めあて設定や振り返り活動を充実させる。
- グループ学習を取り入れ、学び合いが充実するようにする。

6 学年

- 算数少人数指導による個に応じた学習指導が確実にできるようにする。
- 専科および学年間の連絡を密にし、児童の見取りを充実させ、授業に生かす。
- 学習計画をたて、見通しをもった学習を行う。また、時間ごとにめあてのふりかえりを行い達成感を感じられるようにする。

個別支援学級

- 児童の実態に応じた指導が徹底できるよう、担任で共通理解を図り、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行う。
- 児童の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、持てる力を高め、学習・生活上の適切な指導を行う。
- 落ち着いて学習が進められる空間づくりをし、学習環境やワークシステムの構造化を図る。
- 個別で繰り返しの学習を行うとともに、家庭との連携を深め、より定着が進むよう支援する。